

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。

つ の ぶ え

TSUNOBUE

2024年9月1日

第453号



社会福祉法人
小羊学園

住 所 〒433-8105
静岡県浜松市中央区三方原町2709-12

電 話 053-584-3337 FAX 053-585-8488

E-mail sasaeru@kohitsuji.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人 稲 松 義 人

印刷所 アド・アール株式会社



今号のMENU

1 P...

理事長巻頭言

2 P - 4 P...

能登半島地震
支援活動報告

5 P...

実習生インタビュー
おすすめスポット
～まるたま茶屋～

6 P...

支える会総会報告
リレートーク
イベント案内
寄付金報告 他



能登半島地震 1.5 次避難所内の支援者ブース (1/31 時点)
全国から多くの医療・福祉支援者が現地支援に入っていた

最近、毎年のように全国のあちこちから災害のニュースが届く。集中豪雨は、子どもの頃からあったが、最近はある一定の地域を持続的に記録的な集中豪雨が襲う。想定を超えた雨量に排水が追い付かず、河川から離れた地域でも浸水を経験する。強風、落雷、豪雪、猛暑、寒冷、さらに地震、津波、火山噴火などの災害は、電気、水道、食糧、日用品、住まいなど、日常生活に不可欠なところに重大な影響を及ぼす。また、経験したことのない感染症により、私たちの暮らしは根底から大きく揺さぶられた。

安心と安全は、幸せな暮らしにとってキーワードである。人々の生活を支援する福祉の仕事は、適切なリスクマネジメントが求められる。しかし、安全にばかり心を奪われてしまうと、心の安らかさ(安心)を見失ってしまうような気がする。

私たちはバラバラに生きているのではない。どんな状況にあってもつながりの中で生きることを忘れてはならない。助け合いのなかで生きることが、安心と安全を両立させる生き方ではないだろうか。危機に直面したときこそ、つながりが感じられる生き方を見失ってはいけないと感じている。

稲松義人

能登半島地震 被災地支援活動報告

小羊学園が「我が事」として支援させていただいたこと



石川県精育園玄関前にて

令和6年元旦、能登半島沖を震源とするマグニチュード7.5の地震が発生し石川県を中心に大きな被害が出たことは皆様の記憶に新しいと思います。発災後、小羊学園としてできる限りの現地支援をお手伝いさせていただこうと動いてきました。

未だ復興には長期的な支援が必要ですが、現時点までの小羊学園の支援活動を報告します。

静岡D W A T

浜松地区事業推進部長

古橋 誠

静岡D W A T（静岡県災害派遣福祉支援チーム）は大規模災害時に被災自治体からの派遣要請を受け、指定避難所等で福祉支援を行う公的なチームです。平成29年に登録員研修が始まり、小羊学園では7人の職員が登録させていただいています。今回、報告する能登半島地震以前にも、平成30年西日本豪雨で岡山県真備町・令和3年熱海土石流災害で支援活動をしてきました。

発災後の1月6日に静岡D W A T事務局が先遣隊として現地活動に入りました。今回の被災地域の特徴として奥能登エリアの輪島市・珠洲市・能登町に大きな被害が出たこと、交通網も含めたライフラインも壊滅的で緊急期から救助・支援活動に遅滞が生じたことがあげられます。



プライベートテントはこんな感じです

静岡D W A T

密に取りながら避難者情報を整理して、「トイレに近いエリア」「医療支援者に近いゾーン」「比較的静かなゾーン」などの割り振り調整をしました。また、入所後の生活の様子を伺いテント割の再調整や、退所後のテントの消毒や物品入替なども行いました。

1.5次避難所には福祉関係チーム以外にも医療チームやリハビリチームも派遣され、避難者の健康管理や生活相談を行い、災害関連死を防ぐ支援活動に全国から派遣されてきました。私が支援させていただいたことは震災全体のほんの一部でお役に立てたかわかりませんが、今なお苦しんでおられる被災地に心を寄り添い続けたいと思います。



避難所運営でともに活動させていただいた石川県庁職員さんと

静岡 D W A T

小羊デイケアホーム施設長

渥美 雅世

「静岡DWA T」の登録員として、石川県より静岡県知事を通じた派遣要請に基づき2クール支援活動に入りました。



1クール目は、2月17日～20日に志賀町内3か所に設置されている指定避難所にて活動を行いました。活動内容としては、被災者の相談窓口、ラウンドによる被災者へのヒアリング、健康体操の実施等ですが、最重要ミッションとしては保健師や他県DWA T、志賀町役場、医療チーム、リハビリチーム等と情報共有をし、被災者の現状把握と課題の整理を行うことでした。DWA T撤退後に志賀町で被災者支援が展開できるよう地域の関係構築を図りました。

2クール目は、発災から4か月が経過した4月19日～23日に金沢市にある「いしかわ総合スポーツセンター」に設置されている15次避難所と福祉避難所での活動でした。ここでは、発災直後から避難所としてフ

ル稼働してきた体育館の公共施設としての機能回復、福祉避難所の閉鎖に伴い、出口支援をケアマネや医療相談員チームと連携を図り地域へ繋げていく役割を担いました。

2回にわたる活動において、安心して過ごせる場所や食の確保等の急性期の課題に関しては、過去の大規模災害時の反省を経て、早い段階で解決出来ていたのではないかと感じました。ただ、4か月後においても、水道等のインフラ整備や仮設住宅建設等の見通しは暗く、復興の進捗情報も少ない状況下において意欲やモチベーションを維持する難しさを感じました。そして、やはり残された避難者の多くは高齢者である現実、避難所で一度も障がい者にお会いすることがなかったことも大きな疑問と課題を感じた部分でした。

誰一人取り残さない復興を願い、引き続き自身のできる形で復興の協力をしていきたいと思っています。



豊富な物資

厚生労働省介護チーム

浜松市北障がい者支援センター

出水 巖生

厚生労働省から発出された被災社会福祉施設への応援派遣依頼を受け、震度6強の地震によって甚大な被害を受けた穴水町にある障害者支援施設『石川県精育園』へ、三方原スクエアより私と鈴木圭子の2名で2月13日～16日(移動日12、17日)支援に伺いました。

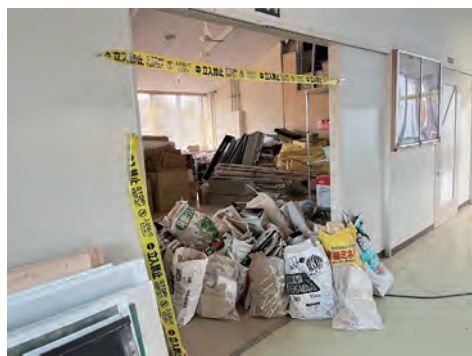
現地では他県からも複数名の応援職員がおり、この期間は男性が比較的充足していたため、私を含む4名のチームは主に被害を受けた建物内外的破損箇所の修理や瓦礫類の片付けなどの整備支援を担当しました。震災から一か月半が経過していましたが、頑丈な鉄筋施設の至る所が損



建物の基礎部分の陥没

壊し瓦礫が散乱している状況や、壁やガラスが割れ落ちて建物内部にも冷たい風雨が吹き込む状況を目の当たりにしました。改めて震災の大きさと皆さんの恐怖や被災生活のご負担を実感し、精育園の皆さんの生活負担が軽減できるよう力を合わせて作業させていただきました。

今回の派遣で特に実感したのは正確な情報の取り扱いと支援調整体制の確保です。支援を必要としている方にだけ必要な支援を届けられるかは、それを繋ぐ調整機能の確立が重要だと考えます。法人内、自治体、県内外、全国組織など、災害時の迅速な協力体制の構築が強化されることを望みます。



使用不可能になったゴミの山

厚生労働省介護チーム

三方原スクエア成人部

生活支援員 鈴木 圭子

2月12日の午後から16日という短い期間でしたが、『石川県精育園』のくろゆり棟（女性棟）に支援に入らせて頂きました。

派遣職員の主な支援内容は、見守り、食事介助、投薬、掃除、シャワー浴の補助（誘導、衣類の着脱、ドライヤーがけ）などを行ないました。

短い派遣期間で、勤務も日勤のみでしたので、24時間・365日の支援を必要とする入所施設の支援のほんの一部しか知ることが出来ませんでした。職員の方からは地震発生時の利用者の様子など、とても貴重なお話を伺うことができました。



宿泊した部屋の止まったままの時計

支援センターわかぎ

ユニットリーダー 伊藤 卓

6月15日から19日まで、二次避難所（石川県立錦城学園）に避難されている『石川県精育園』の男性利用者の支援を行ってきました。20歳代から70歳代の方々22名です。皆さん自立度が高いため、声掛け、見守りと言った支援が主でした。余暇時間には、創作や卓球、フリスビーなど利用者さんと楽しい時間を過ごしました。避難され3ヶ月が経ち、生活の流れも確立されている様に思われました。発災時・後の様子を伺い、今後救助が到着するまで自力で生活できる体制作り、準備が改めて重要であることを感じました。



二次避難所の石川県立錦城学園

支援センターわかぎ

ユニットリーダー 篠原 真利子

6月25日から29日まで、二次避難所（石川県立錦城学園）に避難されている『石川県精育園』の女性利用者の方の支援に入らせて頂きました。

利用者の方の自立度が高いため、派遣職員の業務は、直接的な支援はほとんど行わず、棟内の清掃、日中活動時の散歩や創作、余暇時間での関わり、週2回の入浴の補助を行いました。皆さん避難されてから行事等にも参加され、楽しみもある中、生活されていましたが、疲れも出ており職員も含め体調を崩されている方もいました。職員数の限りがある中、体調管理の大切さをとても痛感しました。



利用者の方から頂いた折り紙

「浜松の企業が手をつなぐ災害支援ネットワーク」



法人本部事務局長 福地 弘倫

小羊学園は世話人団体として設立時から協力しています。発災直後の1月から募金活動を開始し、同月末からは現地に支援ボランティアを派遣する活動を行っています。7月末時点で26回の派遣が実施され、今後も計画がされています。活動の報告と今後の予定はホームページをご覧ください。
<https://hamamatsu-na-net.com/>

石川県精育園の指定管理を受けている社会福祉法人徳充会様は震災にあわれた以降も、懸命に入所されている方々の支援を進められてきています。

想像もつかないご苦労がおりと想像しますが、インスタグラムで元気をいただける発信されています。ぜひフォローをお願いします。

@tokujyukai



被災地の1日でも早い復興を祈っております

未来の保育士の卵 実習生にインタビュー



今年も法人内の施設に福祉系・保育系の学生が実習に来られ、実習の感想をインタビューさせていただきました。

浜松未来総合専門学校 未来こども科2年生

・実習先…三方原スクエア児童部

・何日間の実習ですか？…12日間

・事業所(施設)の印象はどうでしたか？

施設に対して、思っていたよりも家庭に近い雰囲気をもっていると感じました。また、職員の方と利用児の関わりも温かく、良い印象でした。

・実習の感想について聞かせてください！

障がい児の方と関わるのは初めてで、不安や緊張もありましたが、コミュニケーションがとれると嬉しく感じたり、毎日新たに発見があったりして良い経験になりました。また、職員の方が利用児一人ひとりについて丁寧に教えて下さり、関わりがもてたこともあったので、ありがたかったです。

浜松学院大学短期大学部 幼児教育科2年生

・実習先…支援センターわかぎ

・何日間の実習ですか？…12日間

・事業所(施設)の印象はどうでしたか？

障がい者の施設に行ったことが無かったため、「どんなところかな？」という不安感があったが、職員と利用者に関わって行く中で「楽しい！」と印象が180度変わりました。

・実習の感想について聞かせてください！

12日間宿泊で大変だ…と思いましたが、シンプルに楽しかったです。保育専門で勉強をしているので、このような経験は今後ないと思うと、この職業の大変さも楽しさも両方経験できて、良い経験になりました。とても楽しかったです！



小羊学園のお勧め！

障がいのある人にやさしい外出スポット Vol.13

まるたま茶屋



今回のご紹介は・・・除草剤・農薬不使用、化学肥料をできる限り使わず、お茶の栽培・製造・販売まで一貫して行っている「まるたま製茶」さんのカフェ。“自分のこどもに自信をもつてのませたいお茶づくり”を行っています！季節のお茶やスイーツを、どこか懐かしい雰囲気の中で楽しむことができます♪個室もあり予約可能。丁寧な接客も魅力的ですよ！



抹茶フロートセット



3畳のおこもり個室

【概要】

【住 所】浜松市浜名区細江町中川7172-917

【カフェ定休日】日・祝・月曜

【販売定休日】日・祝

【フリーダイヤル】0120-12-0517

TEL : 053-522-0517

HP : marutamachaya.com

KOHITSUJI STAFF



リレートーク

Vol.33

なかせ ゆうた
中瀬 悠太 さん

2015年入職
ドルチェ 主任

Q小羊学園を志した動機は？

前職の幼稚園教諭時代に「グレーゾーン」と呼ばれる子を担当することになり、障がい児支援に関心を持ちました。数年後この仕事に誘っていただきました。

Qこの仕事の嬉しいことは？

利用者の成長を実感する瞬間です。「できた！」という利用者の喜ぶ顔を見ていると、自分も嬉しい気持ちになります。

Qちょっとプライベートを教えてください！

学生時代からダンスを続けています。現在はアクロバットにチャレンジしています。

Q誰にリレーしましょうか？ また一言メッセージを！

法人本部の福地さんをお願いしたいと思います。いつも事務やパソコン関係で相談させて頂きありがとうございます。



2024年度

小羊学園を支える会 総会 報告

7月26日（土）に「2024年度小羊学園を支える会 総会」が支援センターわかぎ会議室で行われ、施設をご利用いただいている保護者の皆様や地域の皆様、職員併せて13名が参加されました。

はじめに石井佑二会長からご挨拶をいただいた後、稲松理事長より前年度の事業報告、今年度からの中長期計画等について説明がありました。また、保護者の皆様からのご質問に直接お答えする時を持つこともできました。小羊学園の働きをお支えくださるお一人お一人に感謝を申し上げます。



訂正とお詫び

つのぶえ452号の資金収支計算書に誤りがございました。

誤「長期貸付金支出」

↓正「積立資産支出」

誤「積立資産支出」

↓正「その他の活動による支出」

深くお詫び申し上げます

三方原スクエア 秋祭り
スイーツフェス!!
・スイーツのキッチンカー
・音楽隊ばったん（浜松協働学舎さん）
など・
楽しいこと盛りだくさん！
2024. 11.16 土
10:00～

久しぶりに大きく開催！
遊びに来てね！
FOOD & ZAKKA
支援センターわかぎ
わかぎマルシェ
2024年10月26日 土 10:00～17:00
活動体験
授産作品販売
キッチンカー
キッズダンス
吹奏楽演奏...etc
あのゆるキャラも遊びにくるかも？

あ と が き

連日40℃に迫る勢いだとして35℃つてそこまで暑くないって感じてしまうほどの地球沸騰化。この先の長期予報だと10月も夏のような暑さが残るようです。日本の四季折々の風景は世界に誇る優美さがありますが、このままだと桜の開花や紅葉の色付きにも変化があるのかもしれない。そして遠くない未来には「春夏秋冬」ではなく「夏夏夏冬」になってしまうのではないかと危惧します。

8月の酷暑過ぎても、まだまだ残暑が厳しい折りです。引き続き、熱中症や感染症に留意され、ご自愛ください。

(F)

小羊学園を支える会

2024年度 寄付金報告

6月～7月分 641,217円 (32件)
累 計 911,717円 (53件)

多くのお支えに感謝申し上げます

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園
ゆうちょ銀行 〇八九店 当座預金0107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。

小羊学園を支える会事務局（鈴木）

小羊学園法人本部 ☎ 053-584-3337